

循環器・呼吸器病学

担当講座	内科学講座 呼吸器内科分野	問合せ先	呼吸器内科分野
分野責任者	前門戸 任 教授	連絡先	呼吸器内科医局 6252
担当教員	前門戸 任 教授、長島 広相 講師、秋山 真親 特任講師、内海 裕 助教、旭 浩一 教授（腎・高血圧内科）、田代 敦 准教授（臨床検査）、金 一 教授（心臓血管外科）、房崎 哲也 准教授（循環器内科）、齋藤 元 教授（呼吸器外科）、小鹿 正博 講師（高度救命救急）、鈴木 健二 教授（麻酔）、大畑 光彦 准教授（麻酔）、佐藤 衛 客員教授（IMM）伊藤 智範 教授（地域医療学）、中館 俊英 非常勤講師（救急医学）		
人材育成の 基本理念	呼吸器病学の専門的な知識を有し、呼吸器疾患の病態解明及び新しい治療法の研究が遂行できる人材を育成する。		
主な研究内容	呼吸・循環系は、生体のエネルギー産生に必要な酸素を組織に供給する上で、欠くべからざる臓器である。これらの臓器の不全は、生命活動を容易に障害し、直接生死を左右する。このため呼吸器・循環器の医療は救急医療を含めて、生命維持の根幹をなす極めて重要な部門である。生命の危機管理の指標となる Vital sign の中に呼吸・循環器に関する項目が少なくないのもこのためである。よって全ての医療関係者に求められる呼吸器・循環器領域全般の基本知識、病態生理学の基本、臨床薬理、さらには外科的対応（治療法）について講義し、十分な理解と共に、その応用力と実践力を養う。		
教育成果 (アウトカム)	教育成果 循環器・呼吸器疾患の病態を理解して、診断及び治療を行うことができる。	該当するディプロマポリシー 1, 2, 3, 4, 5, 6	
達成目標	達成目標	対象科目	
	(1)生命科学や、医療行為のための基本的な知識・技能を活用できる	医学概論	
	(2)計画に従って適切な研究を実施できる。	特別研究I・II	
	(3)研究結果を適切にまとめ、発表できる	特別研究I・II	
	(4)高い専門知識や熟練した技能・技術で、多職種連携業務に貢献できる	多職種チーム医療	
	(5)次世代の育成に貢献できる	特別研究I・II	
(6)循環器・呼吸器疾患の診断・治療について、病態に基づき説明できる。	呼吸器病学-1,2,3,4、呼吸器病診断学-1・2、循環器・呼吸器病学I・II		
資格取得等			
履修に関する 情報	履修申請の際には事前相談に応じる。社会人大学院生など、勤務等で講義に出席できない場合は、日程の調整に応じる。 (問合せ先：呼吸器内科分野、内線6252)		

●在学中に履修できるカリキュラム

区分	配当年次	科目名		開講	コマ数	単位	修了までに 必要な単位	備考
研究 特 論	1年	講義	呼吸器病学-1	前期	15コマ	2	20単位	
	1年	講義	呼吸器病学-2	後期	15コマ	2		
	2年	講義	呼吸器病学-3	前期	15コマ	2		
	2年	講義	呼吸器病学-4	後期	15コマ	2		
	1年	演習	呼吸器病診断学-1	通年	30コマ	4		
	2年	演習	呼吸器病診断学-2	通年	30コマ	4		
	1年	講義	循環器・呼吸器病学I	後期	15コマ	2		
	2年	講義	循環器・呼吸器病学II	後期	15コマ	2		
研 究 指 導	1年		特別研究I（中間審査）	通年	15コマ	2	4単位	
	2年		特別研究II（論文作成）	通年		2		

※他分野の単位取得は分野責任者に相談の上、教務課へ連絡してください。

●各科目の授業計画

循環器・呼吸器病学

コード	MM12141010				MM12141020				MM12141030				MM12141040			
科目	呼吸器病学-1				呼吸器病学-2				呼吸器病学-3				呼吸器病学-4			
担当者	内海 裕 助教				長島 広相 講師				秋山 真親 特任講師				前門戸 任 教授			
会場	呼吸器内科医局				呼吸器内科医局				呼吸器内科医局				呼吸器内科 教授室			
区分等	区分	講義	単位	2	区分	講義	単位	2	区分	講義	単位	2	区分	講義	単位	2
	回数	前期15コマ	配当年次	1	回数	後期15コマ	配当年次	1	回数	前期15コマ	配当年次	2	回数	後期15コマ	配当年次	2
主な授業内容	閉塞性肺疾患（気管支喘息） アレルギー性肺疾患				閉塞性肺疾患（COPD）				呼吸不全の病態、診断、治療				拘束性肺疾患 肺腫瘍			
教育成果	閉塞性肺疾患（気管支喘息）、アレルギー性肺疾患の病態を学ぶことにより、その診断と治療を理解する。				閉塞性肺疾患（COPD）の病態を学ぶことにより、その診断と治療を理解する。				呼吸不全の病態、診断、治療について説明できる。				拘束性肺疾患、肺腫瘍の病態を学ぶことにより、その診断と治療を理解する。			
SBO	分野の達成目標 6				分野の達成目標 6				分野の達成目標 6				分野の達成目標 6			
特記事項	各講義に対する事前学修の時間は最低30分を要し、内容は担当教員に確認すること。 全講義後終了後は速やかに「受講票・履修報告書」をWeb Classにアップロードすること。 「受講票・履修報告書」の記載が不十分な場合は、担当教員がコメントをつけて返却するので、期日までに再提出すること。															
評価方法	「受講票・履修報告書」により総合的に評価する。成績は、ABCD（A:100～80点、B:79～70点、C:69～60点、D:59～0点）の4段階評価とし、ABC（60点以上）を合格とする（60点未満は再提出）。															
講義日程	時間割参照															
教科書参考書																

コード	MM12141050				MM12141060				MM12141070				MM12141080			
科目	呼吸器病診断学-1				呼吸器病診断学-2				循環器・呼吸器病学Ⅰ				循環器・呼吸器病学Ⅱ			
担当者	前門戸 任 教授 秋山 真親 特任講師				長島 広相 講師 内海 裕 助教				前門戸 任 教授 他				前門戸 任 教授 他			
会場	呼吸器内科医局				呼吸器内科 教授室、呼吸器内科医局				呼吸器内科 教授室 他				呼吸器内科 教授室 他			
区分等	区分	演習	単位	4	区分	演習	単位	4	区分	講義	単位	2	区分	講義	単位	2
	回数	通年30コマ	配当年次	1	回数	通年30コマ	配当年次	2	回数	後期15回	配当年次	1	回数	後期15回	配当年次	2
主な授業内容	肺腫瘍の診断法				閉塞性肺疾患、拘束性肺疾患の診断法				循環器・呼吸器疾患				循環器・呼吸器疾患			
教育成果	肺腫瘍の診断法を実践することにより、その意義を理解する。				肺機能の意義と方法について説明でき、実行できる。				循環器・呼吸器疾患の病態を学ぶことにより、その診断・治療を理解する。				循環器・呼吸器疾患の病態を学ぶことにより、その診断・治療を理解する。			
SBO	分野の達成目標 6				分野の達成目標 6				分野の達成目標 6				分野の達成目標 6			
特記事項	各講義に対する事前学修の時間は最低30分を要し、内容は担当教員に確認すること。 全講義後終了後は速やかに「受講票・履修報告書」をWeb Classにアップロードすること。 「受講票・履修報告書」の記載が不十分な場合は、担当教員がコメントをつけて返却するので、期日までに再提出すること。															
評価方法	「受講票・履修報告書」により総合的に評価する。成績は、ABCD（A:100～80点、B:79～70点、C:69～60点、D:59～0点）の4段階評価とし、ABC（60点以上）を合格とする（60点未満は再提出）。															
講義日程	時間割参照															
教科書参考書																

●各科目の授業計画

コード	MM12149010				MM12149020												
科目	特別研究 I				特別研究 II												
担当者	各指導教員				各指導教員												
会場	各指導教員と相談の上決定				各指導教員と相談の上決定												
区分等	区分	演習	単位	2	区分	演習	単位	2									
	回数	通年15コマ	配当年次	1	回数	通年15コマ	配当年次	2									
主な授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・生命科学や研究手法の基礎的な知識 ・研究計画調書の作成 ・中間審査実施 				<ul style="list-style-type: none"> ・生命科学や研究手法の専門的、発展的な知識 ・論文作成 ・最終審査の準備 												
教育成果	<p>生命科学や研究手法の基礎的な知識を身につける。研究内容の討議を行い、質問に対し、適切に答えることができる。</p> <p><中間審査> 1年次末までに実施。 研究指導教員同席のもと非公開で実施する。研究計画調書に基づき、研究の概要及び進捗状況について口答で説明し、現在に至るまでの過程及び初期審査時の目標の達成度等について審査を受け、今後の研究の進め方について指導を受ける。</p>				<p>生命科学や研究手法の専門的な知識を身につける。最終審査に向けて、情報を適切に分析し、論旨を展開できる。</p> <p><論文作成> 2年次12月までに実施。 論文作成に向けたデータ収集や解釈、図譜の作成や記載ができ、論文が作成できる。</p>												
S 目 到 標 達	分野の達成目標 (2) (3) (5)				分野の達成目標 (2) (3) (5)												
特記事項	中間審査の詳細は、「中間審査の手引き」を参照。																
評価方法	①受講票 ②中間審査結果				①受講票 ②学位申請論文の提出												
講義日程	時間割参照																
教科書 参考書																	

●時間割

循環器・呼吸器病学

【前期】 講義時間		月	火	水	木	金	土
1 限	8:50~10:20						基礎科目
2 限	10:30~12:00						
3 限	13:00~14:30						
4 限	14:40~16:10						
5 限	18:00~19:30	呼吸器病診断学1・2		呼吸器病学1・3			
6 限	19:40~21:10						
【後期】 講義時間		月	火	水	木	金	土
1 限	8:50~10:20						基礎科目
2 限	10:30~12:00						
3 限	13:00~14:30						
4 限	14:40~16:10						
5 限	18:00~19:30	呼吸器病診断学1・2		循環器・呼吸器病学Ⅰ・Ⅱ			
6 限	19:40~21:10			呼吸器病学2・4			

<履修スケジュール> ※各自記録してください。

【前期】 講義時間		月	火	水	木	金	土
1 限	8:50~10:20						
2 限	10:30~12:00						
3 限	13:00~14:30						
4 限	14:40~16:10						
5 限	18:00~19:30						
6 限	19:40~21:10						

【後期】 講義時間		月	火	水	木	金	土
1 限	8:50~10:20						
2 限	10:30~12:00						
3 限	13:00~14:30						
4 限	14:40~16:10						
5 限	18:00~19:30						
6 限	19:40~21:10						